

〔日本語スピーチコンテスト〕

2018年度 敢闘賞

言葉の力

118J085 CHEE WILSON (チー・ウィルソン)

わたしは、チー・ウィルソンと申します。人文学部日本文化学科一年生です。出身は、マレーシアです。わたしは、多くの人にマレー人だと思われていますが、実は、中華系です。マレー語、中国語、英語の3つの言語を話すことができます。わたしの夢は、日本語教師になることです。その夢のために、日本に留学にきました。そして、この日本での留学経験は、自分の性格を変えてきました。わたしを一番変えてくれたのは、言葉の力です。

皆さんは、おそらく、言葉というものは、書いたり、読んだりするときに使うということをよくご存じかと思います。しかし、言葉には別の側面があります。それは、人を支えたり、応援したりする力を持っているということです。もしかしたら、みなさんも考えたことがあるかもしれません。

わたしは、聖学院大学に入る前に、日本語学校に通っていました。わたしは、そこで挫折ばかり経験しました。わたしの日本語の能力は、日本語学校で平均以下だったので、どんな試験でも、胸を張ることができませんでした。しかし、その時、天使のような先生に会いました。藤本先生という先生です。藤本先生には、勉強の方法だけでなく、心を落ち着かせる方法を教えてもらいました。そのおかげで、だんだん胸を張れるようになりました。その日から、藤本先生はわたしのかけがえのない恩師になりました。

やがて、日本語学校の卒業式の日が近づいてきて、わたしは、大学受験を迫られました。大学に入らなければならなかったのです。なぜなら、日本語学校のコースが終わる前に、大学に入れなかったら、帰国するしかなかったからです。周りの学生は、次々と入りたい大学に合格していききましたが、わたしは目標とする大学の入試が近づくにつれて、プレッシャーで、自信を失ってしまいました。そんな時、藤本先生がひとつ話をしてくださいました。それは「努力は無限、夢を実現する」という話でした。先生の話の意味は、いくら失敗があっても、頑張れば、夢を実現できるという意味でした。わた

しは自分が今までしてきたことを思い出し、胸を張り、大学受験に自信を持って取り組めるようになりました。

先生の話のおかげで、ようやく聖学院大学の AO 入試に受かりました。しかも、その言葉を思い出せば、いまでもどんな困難があっても、乗り越えられるようになりました。今は、藤本先生はそばにはいませんが、辛いことがあっても、恩師である藤本先生の言葉で自分ひとりで立ち直れるようになりました。

その時から、言葉の力を信じています。言葉の力は、わたしを変えてくれました。皆さんは言葉の力についてどう思いますか。多分 皆さんにも人生でうまくいかないことがあると思いますが、もし誰かにひとつの話をしてもらえば、自分を励ませるようになり、うまくできない物事がうまくいけるようになるかもしれません。しかも、素晴らしい自分自身を見つけることができるかもしれません。皆さんも、自分を支えてくれる言葉を探せば、わたしと同じように不思議な力をもらえenと思います。しかも、挑戦できなかったことが、言葉の力で、胸を張って挑戦できるようになるかもしれません。ぜひ皆さんも、「言葉の力」について考えてみてください。

以上でスピーチを終わります。ありがとうございました。